



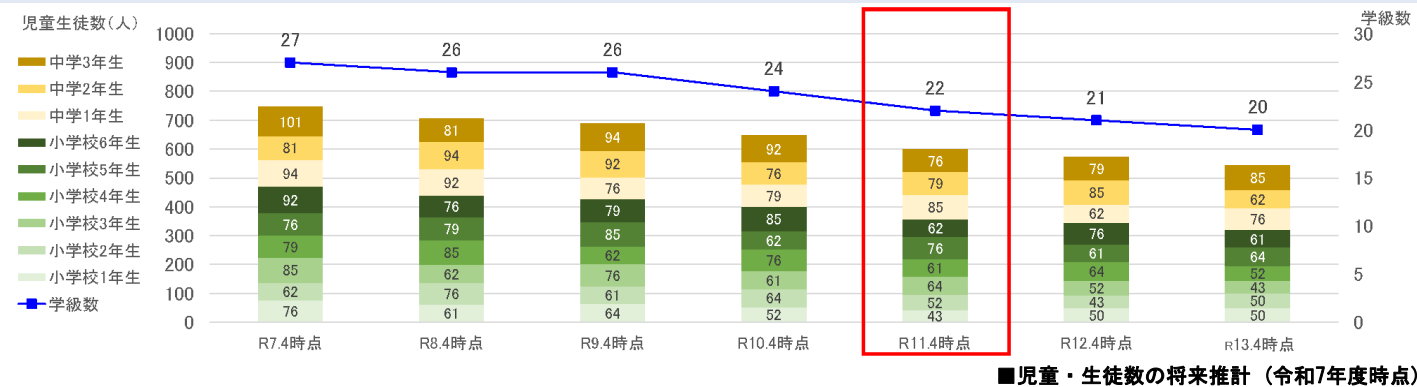
■現在の千代田中学校

(1) 背景

町内には、千代田町立の東小学校、西小学校、千代田中学校の3つの公立学校があり、**各校とも校舎の各所に劣化**が見られるようになってます。

これらの学校施設については、児童・生徒の安全性を確保することはもちろん、地域の避難所としての役割を有していることから、児童・生徒数の推移を考慮しつつ、**統合を視野に町全体として学校施設の建替え又は長寿命化改修、大規模改修等を検討**し、これらを計画的に実施する必要があります。

令和7年度の児童・生徒数は、児童が470人、生徒数は276人となります。今後は、現況から**ゆるやかに児童・生徒数が減少**することが見込まれ令和11年度の4月時点では、**令和7年度の4月からおよそ20%が減少**の見込みです。



(2) 目的

上記のことを踏まえ、現在の町内小・中学生の学習環境を維持しつつ、千代田町の将来を支えることもたちに、時代に合った、より良い学習環境を提供できるように、**千代田中学校の敷地を中心として小中一貫校の新設**を計画します。

「千代田町小中一貫校建設事業基本計画（以下、基本計画）」では、上位計画である「教育行政方針」と「千代田町立千代田中学校等施設整備基本構想」を踏まえ、**より具体的な施設計画について検討**し、今後の基本設計の諸条件を立案・確認するとともに、**更なる検討を必要とする条件等を把握**することを目的とします。

(3) コンセプト・整備方針

コンセプト

「つなぐ」

- ①子ども園の年少から中学生3年生までの12年間で「つなぐ」**
12年間の一貫した教育課程で、重複のない学びを展開
つなぎ目における課題を解決
- ②学校と地域を「つなぐ」**
社会教育との連携、施設の一部を地域に開放
- ③自分と世界を「つなぐ」**
特別な英語活動、共通の趣味を生かして世界中の児童・生徒と会話

整備方針

学び：ラーニング・commonsを中心に、学校全体が学習意欲を刺激する空間づくり
生活：学年を超えた繋がり心身ともに豊かな9年間を過ごせる心地良い空間づくり
共創：地域と共に育み、だれもが共に育つことができる多様な学びの空間づくり
環境：自然豊かな周辺環境に調和し、省エネルギー化を目指した施設づくり
安全：防犯や防災に配慮し、誰もが利用しやすく安全安心な施設づくり

(4) 図書室を中心としたラーニング・commons

文部科学省が発表した「新しい時代の学びを実現する学校施設のあり方について」は、**多様な学習を展開できる教育環境の整備等の充実**が掲げられており、未来思考の視点を含む新しい時代の学びを実現する**具体的な空間イメージ**として例示されています。そこで本小中一貫校においても、学校図書室とコンピュータ室を組み合わせ**ラーニング・commons**を**読書・学習・情報の中心**として捉え、さらに多目的室としての機能も併せ持つことで、**より高度な学びの場**となるように検討します。



■文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設のあり方について」より

(5) 施設概要

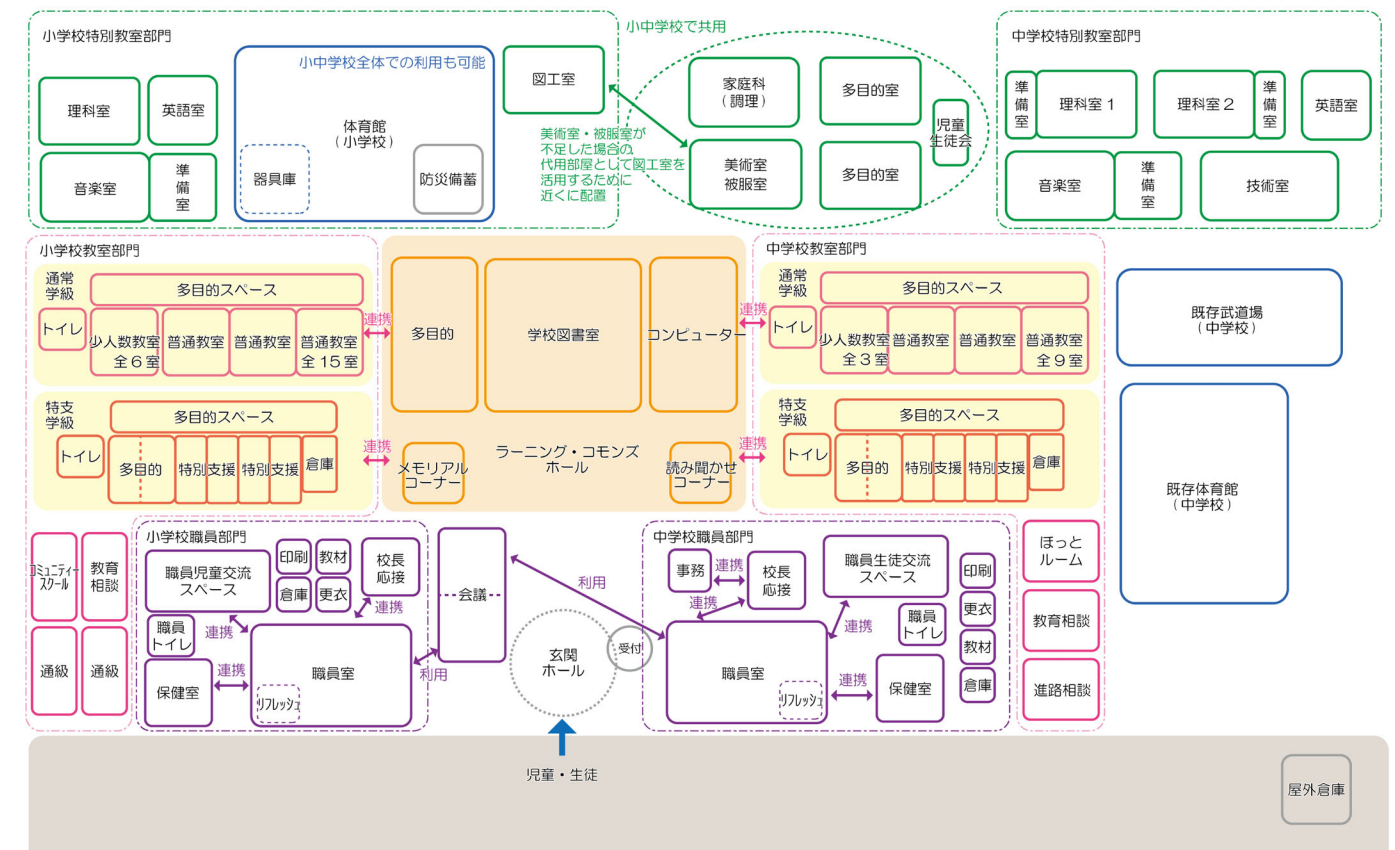
基本計画では小学校と中学校それぞれの区分は残しつつも、**小中一貫校としてのメリットを最大限活かせる「小中施設一体型」**の計画とします。

- 一般的に言われる「小中施設一体型」のメリット
- ・幅広い年齢層でのコミュニケーションが図りやすい
 - ・諸室の共用化により、施設規模の縮小が図れる
 - ・小中学校の教職員が日常的に交流でき、連携が取りやすい

- 一般的に言われる「小中施設一体型」のデメリット
- ・施設を共有しているため、年齢差によるトラブルへ配慮が必要
 - ・小中学校で制度や時間割が異なる部分が多く、調整が必要

(6) 施設構成について

上記の通り、「小中施設一体型」の計画において、基本計画の施設構成を下記の図で示しました。



(7) 配置計画

新校舎配置は、**教育活動の効率性**
および児童・生徒の学習と生活環境
の充実を考慮し、北側への校舎配置
を基本とする計画とします。

＜新校舎北側配置のメリット＞

- ・既存の武道場や体育館との距離が短くなり、体育・武道等の活動への**移動時間が短くなる**
- ・南側にグラウンドを配置することにより、年間を通じて**日照条件が良好**。グラウンドの維持管理がしやすい
- ・校舎が南向きとなることで、普通教室に十分な自然採光を確保でき、**明るく快適な学習環境を実現**

■敷地内の動線計画

校舎および敷地内の動線計画においては、**児童・生徒の安全を最優先に考慮**し、校内での移動が円滑かつ安全に行えるよう配慮します。特に、児童・生徒の動線と自動車の通行動線（職員用、来客用、搬出入用等）とが**交差しないようにゾーニング**を行い、**明確に分離する設計**をします。また、来校者用の動線についても、外から来客玄関までのルートを示し、児童・生徒の活動区域とは分けて誘導できるよう設計を行うことで、**防犯面での安心**にもつなげます。



(8) 平面計画

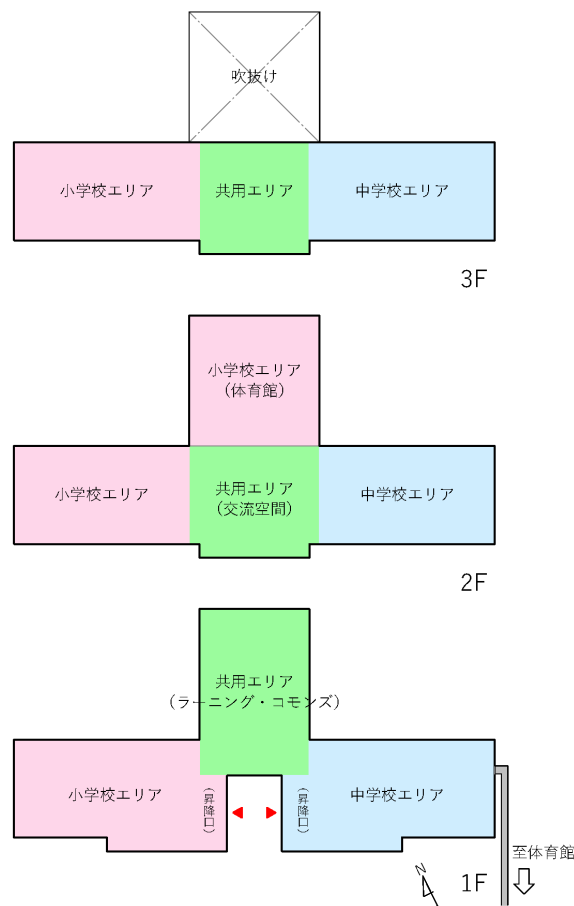
小中一貫教育の理念を踏まえ、小学校と中学校を一体的に整備する「**小中施設一体型**」の**新校舎を建設**を目指します。敷地の東側には既存の中学校体育館・武道場が位置することから、校舎は**東側に中学校エリア**、**西側に小学校エリア**、**中央に共用エリア**を配置する平面構成とし、**校舎は合棟**とすることで**児童・生徒の交流を促進**します。

また、小学生と中学生で**主要な動線を分離**するなど、児童・生徒の年齢差によるトラブルにも十分に配慮した設計を目指します。校舎の総面積は約12,500㎡で、文部科学省の基準に基づく必要面積（約12,200㎡）と同程度で計画することで、適正規模での整備を図ります。

■小学生と中学生および教職員の交流スペース一覧表

屋外スペース	・アプローチ広場：小中学校の昇降口前の共用空間 ・校庭：小中学校で共用しても安全に利用できる広さ ・屋外ステージ：集会や行事等で共に利用できる場
屋内スペース	・ラーニング・コモンズ：学びを通じた交流空間 ・ラーニングホール：展示発表の共有交流空間 ・教職員との交流スペース：職員室前に確保した児童・生徒と教職員の交流の場、学びのスペース ・大階段：展示発表、語らいの共有空間 ・児童生徒会室：児童会と生徒会の一体的な組織化 ・多目的室：多機能に利用できる交流空間

これらの交流空間は、学習活動と日常生活の双方でのつながりを強め、小中一貫教育の効果を高めるための重要な基盤として位置づけられます。小学生と中学生が日常的に関わり合うことは、中学校進学時のいわゆる「**中一ギャップ**」の**解消**にもつながり、学習や生活をより良いものとする上で重要とされています。また、教職員との密接なコミュニケーションも、**子どもたちの学びや成長を支える要素**と考えられています。



(9) 事業スケジュールと整備手順

工事は造成工事、新校舎建設工事、既存校舎解体工事、校庭整備工事の**4つに大別**されます。令和9年度の新校舎建設工事着工を目指し、令和7～8年度に基本・実施設計を行います。そして、令和11年4月から新校舎の供用開始を目指します。

工事期間中は児童・生徒の**安全確保**のため、**工事出入口に交通誘導員を常に設け**ます。また、新校舎と既存校舎の距離は離れていますが、学習環境に影響がないように、**防音シートや防音パネル等を使用して騒音対策**を行います。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
設計		基本設計	実施設計		解体設計
道路付替設計・工事		道路設計・工事			
許認可申請手続			許認可		
造成工事			造成		
新校舎建設工事			新校舎建設		
既存校舎解体工事					既存校舎解体
校庭整備工事					校庭
工事ステップ		①	②	③	④ ⑤

